



平成30年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月12日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	31,572	1.1	1,513	19.6	1,549	19.7	979	40.3
29年2月期第3四半期	31,235	0.4	1,266	9.7	1,294	8.9	698	14.9

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 957百万円 (32.3%) 29年2月期第3四半期 723百万円 (10.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	91.56	
29年2月期第3四半期	64.61	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	18,402	13,353	72.6
29年2月期	17,997	13,404	74.5

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 13,353百万円 29年2月期 13,404百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		0.00		45.00	45.00
30年2月期		0.00			
30年2月期(予想)				55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	1.1	2,550	13.8	2,600	14.1	1,600	27.7	150.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期3Q	12,446,700 株	29年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	30年2月期3Q	1,978,627 株	29年2月期	1,740,627 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期3Q	10,698,284 株	29年2月期3Q	10,809,346 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の好調や円安基調を背景に輸出は持ち直しを見せており、企業収益の改善をはじめ雇用・所得環境は堅調を維持する等、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、個人消費は底堅く推移したものの本格的な回復には未だ力強さに欠けるものとなり、また海外の政治動向が世界情勢に与える懸念等、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、肉の老舗として、引き続き「肉」を訴求した商品の拡充に取り組みました。店内厨房による出来立て惣菜に、高い調理技術と食材へのこだわりをもって、よりおいしいものをご提供するため、人財育成の強化、商品開発力の向上に継続して努めてまいりました。また、多様化するお客様のニーズに柔軟に対応するため、製販一貫体制を活かした効率的な運営の更なる強化を図りました。

出退店・改装につきましては、業務移管を含め「近鉄四日市精肉店」をはじめ計25店を出店するとともに、3店の改装を行いました。一方、12店を退店いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31,572百万円(前年同期比1.1%増)、営業利益は1,513百万円(同19.6%増)、経常利益は1,549百万円(同19.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は979百万円(同40.3%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、赤身部位を中心としたものや、食べ比べセット等、お求めやすい価格帯の商品を中心に商品展開の見直しを行い、お客様によりご満足いただける売場作りに取り組むとともに、小間きれや切り落とし等の定番商品の商品力向上にも注力いたしました。

出退店・改装につきましては、「近鉄四日市精肉店」を含め計2店を出店するとともに、1店の改装を行いました。一方、2店(惣菜事業への移管1店含む)を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は10,844百万円(前年同期比4.2%増)、セグメント利益は950百万円(同57.0%増)となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、旬の食材を使用した季節限定弁当の他、『黒毛和牛 すき焼重』、『スペアリブBBQソース』に加え、オイスターやメンチカツ、黒酢酢豚等の「肉」を訴求した定番人気商品の積極的な展開に取り組みました。

出退店・改装につきましては、「西武所沢ダイニング」をはじめ計7店(精肉事業からの移管1店含む)を出店するとともに、1店の改装を行いました。一方、4店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は9,676百万円(前年同期比2.6%増)、セグメント利益は855百万円(同5.4%増)となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、おはぎ、団子、大福、どら焼の定番商品に、季節限定で、栗、サツマイモ、いちごのアイテムを導入した他、『ピオーネ大福』、『シャインマスカット大福』、『よくばり団子(みたらし・栗あん)』といった季節や歳時に応じた商品展開を行いました。

出退店・改装につきましては、計13店を出店するとともに、1店の改装を行いました。一方、4店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は5,181百万円(前年同期比1.3%増)、セグメント利益は300百万円(同23.7%減)となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、フードコート型レストラン「柿安 Meat Express」をイオンモール大高をはじめ計3店出店いたしました。『柿安名物 牛肉しぐれ煮丼』の他、既にグリル業態店舗でご好評いただいている『ローストビーフ丼』を中心に展開し、グリル業態の活性化に注力いたしました。

出退店につきましては、「柿安 Meat Expressイオンモール大高」をはじめ計3店を出店する一方、1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,567百万円(前年同期比4.6%減)、セグメント利益は85百万円(同34.3%増)となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、『糖質30%オフ 牛肉しぐれ』、『グルテンフリー 牛肉しぐれ』をはじめ『柿安茶漬 瀬戸内産ちりめんじゃこ』、『柿安茶漬 穴子山椒』等、自家需要向け商品の拡充による活性化に注力いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,303百万円(前年同期比9.4%減)、セグメント利益は317百万円(同3.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ405百万円増加し、18,402百万円となりました。

流動資産は395百万円増加し、10,504百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加855百万円及び仕掛品の増加140百万円と現金及び預金の減少773百万円等であります。固定資産は9百万円増加し、7,897百万円となりました。主な要因は、無形固定資産の増加28百万円及び差入保証金の増加22百万円と機械装置及び運搬具の減少33百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ456百万円増加し、5,049百万円となりました。

流動負債は507百万円増加し、4,478百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加470百万円及び賞与引当金の増加178百万円と未払法人税等の減少216百万円等であります。固定負債は50百万円減少し、571百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少75百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ51百万円減少し、13,353百万円となりました。主な要因は、自己株式の取得による減少527百万円と利益剰余金の増加497百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成29年4月11日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(平成30年1月12日)公表いたしました「平成30年2月期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,610	5,837
受取手形及び売掛金	2,571	3,427
商品及び製品	279	388
仕掛品	238	379
原材料及び貯蔵品	175	197
繰延税金資産	204	236
その他	29	39
流動資産合計	10,109	10,504
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,114	3,107
土地	2,261	2,261
その他(純額)	736	715
有形固定資産合計	6,112	6,083
無形固定資産		
	197	225
投資その他の資産		
投資有価証券	206	209
繰延税金資産	131	128
差入保証金	833	855
退職給付に係る資産	166	149
その他	239	245
投資その他の資産合計	1,578	1,588
固定資産合計	7,887	7,897
資産合計	17,997	18,402
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,235	1,705
未払金	455	522
未払法人税等	481	264
未払費用	938	1,040
賞与引当金	366	544
役員賞与引当金	34	25
その他	459	374
流動負債合計	3,970	4,478
固定負債		
長期借入金	75	—
資産除去債務	462	492
その他	84	78
固定負債合計	621	571
負債合計	4,592	5,049

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	13,952	14,450
自己株式	△3,014	△3,542
株主資本合計	13,282	13,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	24
退職給付に係る調整累計額	102	75
その他の包括利益累計額合計	122	100
純資産合計	13,404	13,353
負債純資産合計	17,997	18,402

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	31,235	31,572
売上原価	16,251	16,038
売上総利益	14,983	15,534
販売費及び一般管理費	13,717	14,021
営業利益	1,266	1,513
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
工事負担金等受入額	5	—
受取補償金	—	18
その他	28	21
営業外収益合計	36	42
営業外費用		
支払利息	3	1
その他	5	5
営業外費用合計	8	6
経常利益	1,294	1,549
特別利益		
固定資産売却益	3	—
投資有価証券売却益	—	1
その他	0	—
特別利益合計	4	1
特別損失		
固定資産除売却損	9	14
減損損失	85	—
その他	6	1
特別損失合計	101	15
税金等調整前四半期純利益	1,197	1,534
法人税、住民税及び事業税	537	573
法人税等調整額	△38	△18
法人税等合計	498	555
四半期純利益	698	979
親会社株主に帰属する四半期純利益	698	979

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)
四半期純利益	698	979
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	5
退職給付に係る調整額	19	△27
その他の包括利益合計	25	△22
四半期包括利益	723	957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	723	957

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

平成29年11月9日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、平成29年11月21日付で自己株式238,000株(取得価額527百万円)の取得を実施いたしました。これにより、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が3,542百万円(1,978,627株)となりました。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,407	9,434	5,113	3,737	2,542	31,235	—	31,235	—	31,235
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,010	18	51	48	203	1,333	—	1,333	△1,333	—
計	11,417	9,453	5,165	3,785	2,745	32,568	—	32,568	△1,333	31,235
セグメント利益	605	811	394	63	306	2,180	—	2,180	△914	1,266

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△914百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△948百
万円及びその他調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を85百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、85百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成29年3月1日至平成29年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,844	9,676	5,181	3,567	2,303	31,572	—	31,572	—	31,572
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	979	16	50	22	271	1,340	—	1,340	△1,340	—
計	11,823	9,692	5,232	3,589	2,575	32,912	—	32,912	△1,340	31,572
セグメント利益	950	855	300	85	317	2,508	—	2,508	△995	1,513

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△995百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,028
百万円及びその他調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属
しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、事業管理部門の変更に伴い、精肉事業に含めておりました一部の店舗に
ついて、惣菜事業へ報告セグメントを変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント
情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。